



## 第3次みやこ町総合計画

### 第3章 基本計画

---

- 1 重点プロジェクト ..... 28
- 2 基本施策 ..... 33

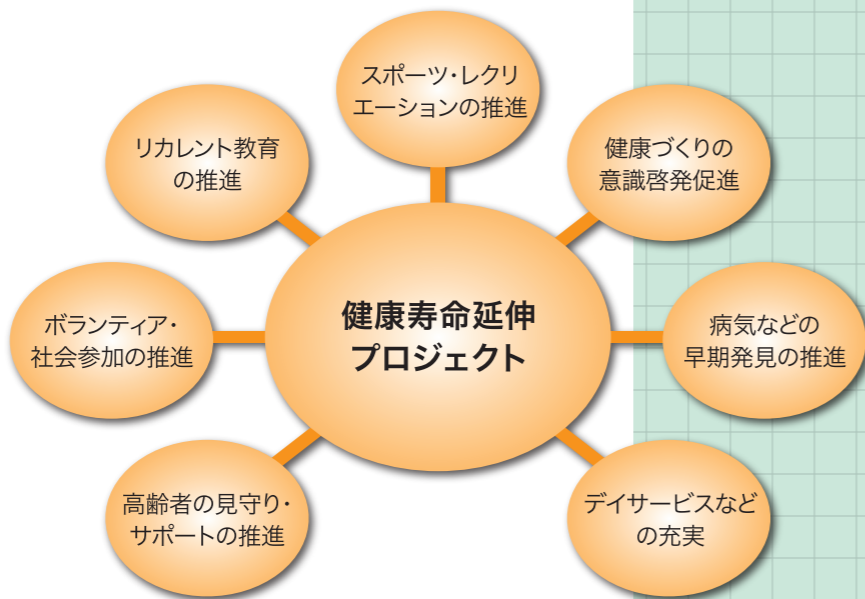
将来像を実現するためには、「施策の大綱」で定めた5つの基本目標に基づく各施策を着実に進めていく必要があります。

その中でも、今後5年間で特に戦略的・重点的に取り組む施策・事業を横断的な視点から整理し、「重点プロジェクト」として位置付けます。

**(1)日本一元気なまちを実現する健康寿命延伸プロジェクト**

日本は、健康寿命が世界一の長寿社会を迎えており、今後の更なる健康寿命の延伸が期待されています。こうした人生100年時代には、高齢者から若者まですべての人に活躍の場があり、すべての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことができる社会をつくる必要があります。

本町では「日本一元気なまち」を掲げており、生涯を通じ健康的な生活が送れるようにする環境づくりに取り組みます。これを実現するため、住民の生きがいづくり(リカレント教育※、65歳以上の継続雇用、高齢者などの社会参加など)や健康づくり(運動機会の提供、各種検診の受診勧奨による生活習慣病の予防など)を推進し、健康寿命の延伸を図ります。



**成果指標**

指標	現状値(令和元年)	目標値(令和7年)
健康づくり事業の参加率	19.0%	20.2%
要介護認定率	19.1%	20.6%

※リカレント教育:社会の変化に適応していくため、教育は生涯にわたり続けていくことが重要であるということから、個人が必要とすれば教育機関に戻って学ぶことができる教育システム

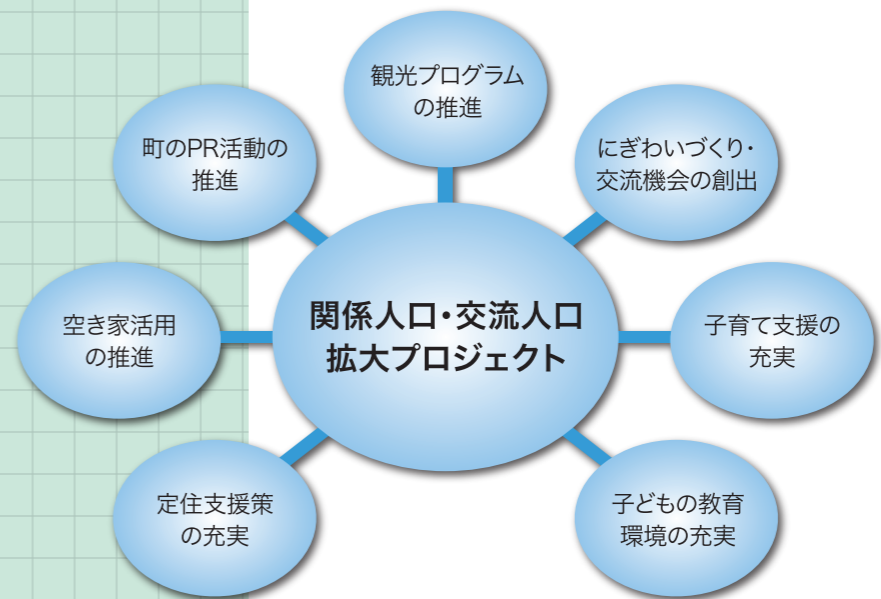
**(2)人がにぎわうまちを実現する関係人口・交流人口拡大プロジェクト**

日本の地方都市の多くは、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足、地域経済の活力低下という課題に直面しています。一方で、「若い世代が、地方移住へ高い関心を示している。」や「都市在住者の中でも、地方に縁のある者の方が地方に縁のない者より地方への移住を希望している。」との調査結果があります。

既に地域によっては若い世代を中心に、変化を生み出す人材が地域に関わり始めているところもあり、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されています。

また、定住人口が減少する中で、観光客や二地域居住者など交流人口を拡大させることで人口減少の影響を緩和し、地域のにぎわいや経済活力を維持・拡大させることも重要となっています。

本町においても、関係人口、交流人口の拡大による担い手育成や、にぎわいづくり、交流機会の創出など、経済活力の拡大を図るため、町の認知度向上に向けた情報発信・PRや、観光まちづくり振興計画の提案プログラムなどを実施するとともに、定住人口の創出(空き家活用、定住支援、子育て支援、子どもの教育環境など)に向けて、町有地を活用した宅地などの整備に取り組みます。



**成果指標**

指標	現状値(令和元年)	目標値(令和7年)
観光入込客数	1,096千人	1,200千人
ふるさと納税寄付件数(累計)	7,432人 (平成27年~令和元年)	16,300人 (令和3年~令和7年)



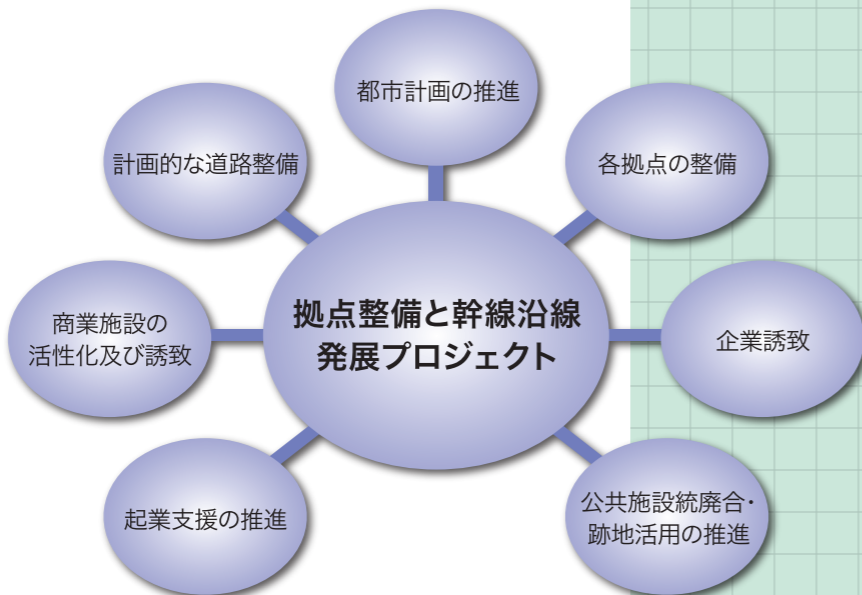
(3) 経済が循環するまちを実現する拠点整備と幹線沿線発展プロジェクト

国道201号は、福岡県北部を東西方向に横断し、九州道と東九州道を連結するとともに、物流拠点である博多港と苅田港などを結んでおり、北部九州全体の経済発展の一翼を担う重要な基幹道路です。また、全線を通して、平常時・災害時を問わない安定的な輸送の確保を目的とした「重要物流道路」としても指定されています。

しかし、飯塚市から香春町にかけてはバイパス化、拡幅整備が進んでいますが、本町の区間については、未だに路線決定されていない状況です。

本町のもう一つの幹線道路である国道496号は、伊良原ダム建設に伴い犀川地区の一部は整備されましたが、ダムの上流部である上伊良原から帆柱間は依然として道幅が狭く離合が困難です。また、豊津地区においては歩道整備の進捗は見られますが、依然として整備延長が少なく、地域の小中学生や高齢者の安全・安心な歩行の妨げとなっています。地元からは、安全で安心して通行できるように道路拡幅や歩道の新設の要望などがなされています。

以上のことから、地域の安全・安心の確保や企業立地・商業施設の誘致など経済に好循環をもたらす国道201号・496号の拡幅整備(バイパス化を含む)を関係機関と連携して促進するとともに、各拠点(勝山本庁舎周辺、豊津支所周辺、みやこ豊津IC周辺、犀川支所周辺、伊良原ダム・帆柱周辺)を整備し沿線開発を推進することで産業立地と地域活性化を図ります。



成果指標

指標	現状値(令和元年)	目標値(令和7年)
町道の整備(累計)	32.5km (平成28年~令和元年)	20.0km (令和3年~令和7年)
社会増減数	△119人	43人
企業誘致件数(累計)	2社 (平成27年~令和元年)	2社 (令和3年~令和7年)

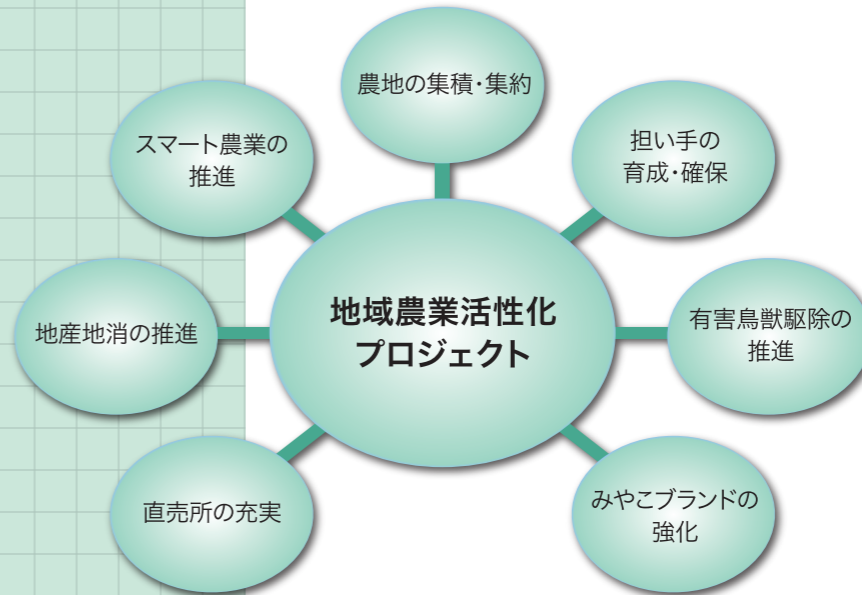
(4) 地産地消のまちを実現する地域農業活性化プロジェクト

本町にとって農業は主要産業の1つではありますが、農業を始める際の初期費用が嵩むことや、収入が不安定であることなどにより、若年層の新規就農人口は少なく、高齢化が進んでいます。その結果、後継者不足や労働力不足、そして耕作放棄地が増加しています。

これらの人材不足を補うために、関係機関が協力して新規就農研修生の受け入れや就農希望者の開拓など様々な取り組みが行われています。

近年は、若い新規就農希望者の増加や企業の農業参入による雇用増加など、農業への関心が高まっています。また、日本の高い技術を守り、品質の高い農業を続けるために、従来の農作業をICTやIoT、ロボット技術、さらにはAIなどを駆使することで自動化・省力化するスマート農業が注目をされています。

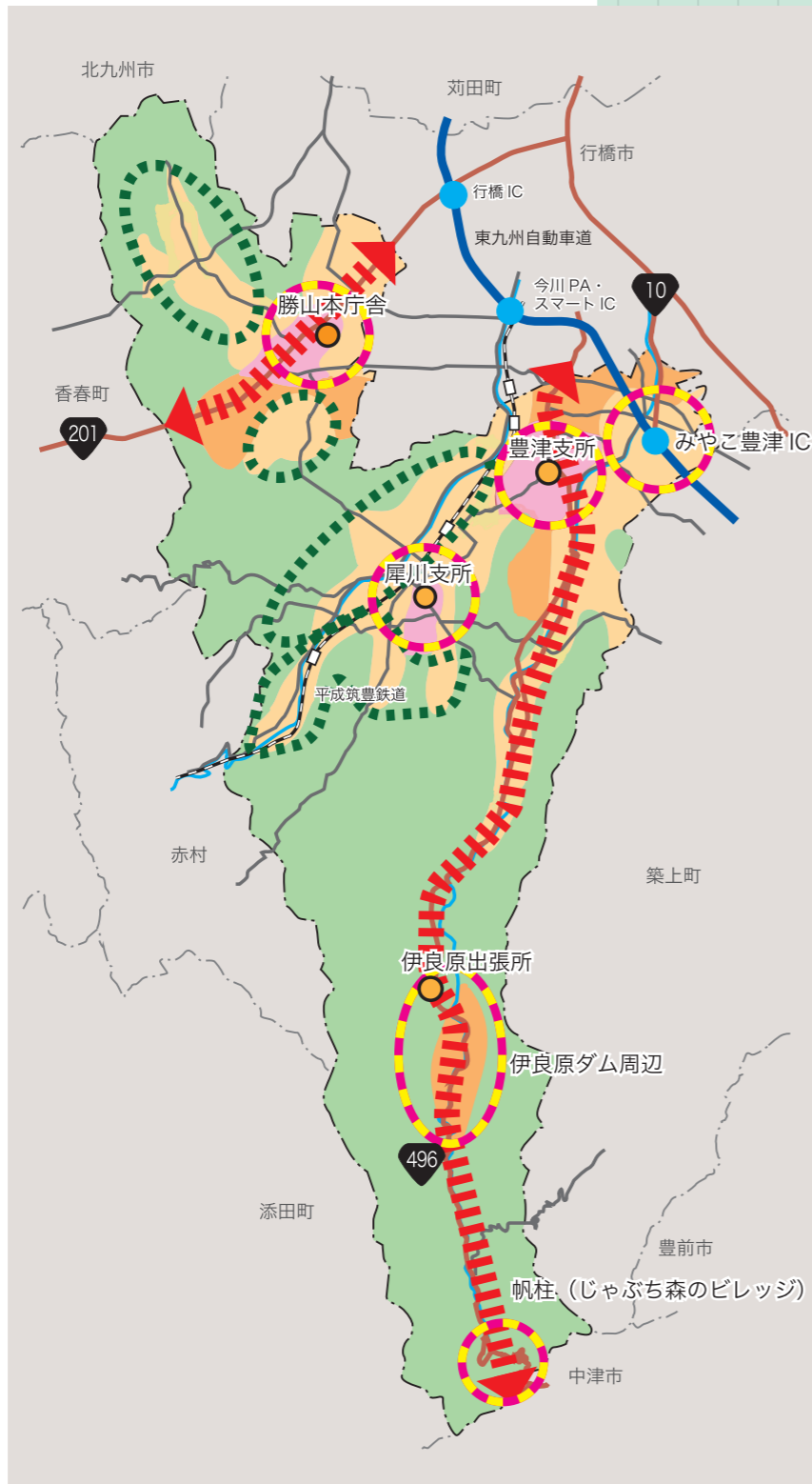
市場動向の変化に対応した稼ぐ農業を育成するため、スマート農業の展開を見据えながら、移住・定住施策と連携した担い手の育成・確保や農地の集積・集約などによる有効活用、農産品のブランド化の推進、地場農産物の消費拡大を図ります。



成果指標

指標	現状値(令和元年)	目標値(令和7年)
新規就農者数(累計)	7人 (平成27年~令和元年)	7人 (令和3年~令和7年)
主要農林特産品の販売額	1.0億円	1.3億円

土地利用構想と重点プロジェクトの位置図



健康寿命延伸プロジェクトは町全域が対象

-  拠点整備と幹線沿線発展プロジェクト
-  関係人口・交流人口拡大プロジェクト
-  地域農業活性化プロジェクト
-  まちなか居住ゾーン
-  集落住居ゾーン
-  交流育成ゾーン
-  保全・活用ゾーン

(1)元気で安心して生活できるまちづくり

- 施策1 生涯現役を推進する ..... 34
- 施策2 介護予防・介護サービスの充実を図る ..... 36
- 施策3 みんなで支え合う仕組みをつくる ..... 38
- 施策4 あらゆる差別の撤廃と人権擁護を推進する ..... 40
- 施策5 生活の安全・安心を確保する ..... 42

(2)自然と共生し、快適で住みよいまちづくり

- 施策6 豊かな自然環境を守る ..... 44
- 施策7 道路を整備する ..... 46
- 施策8 住環境を良くする ..... 48
- 施策9 移住・定住を促進する ..... 50
- 施策10 生活の利便性を向上する ..... 52

(3)産業と交流が盛んな活気あるまちづくり

- 施策11 農林業を振興する ..... 54
- 施策12 特産品を活かした魅力づくりを推進する ..... 56
- 施策13 商工業を振興する ..... 58
- 施策14 観光を振興する ..... 60
- 施策15 国際交流を推進する ..... 62

(4)夢をもち、心豊かな人を育てるまちづくり

- 施策16 子育て支援の充実を図る ..... 64
- 施策17 子どもの教育環境の充実を図る ..... 66
- 施策18 社会教育の充実を図る ..... 68
- 施策19 スポーツの推進を図る ..... 70
- 施策20 地域文化の継承と振興を図る ..... 72

(5)住民と行政がともに歩むまちづくり

- 施策21 住民と行政との協働を推進する ..... 74
- 施策22 開かれた町政を推進する ..... 76
- 施策23 効率的な行政運営を行う ..... 78
- 施策24 健全な財政運営を行う ..... 80
- 施策25 公営企業の安定的な経営を推進する ..... 82